



昆虫類調査の中で、主に蛾類を対象とした調査に用いられるのがライトトラップです。中でもよく使うのがカーテン法とよばれるもので、日没後3時間程度、垂らしたカーテンに蛍光灯などの明かりをあてて集まってくる蛾などを採集します。人が付きっきりで1個体ずつ丁寧に採集するため採集品が美しく同定も比較的楽にできます。

実施条件としては新月または曇の日で気温が高く、少しモヤがかかっているようなときが最高で、満月や気温の低い日にはあまり集まりません。海沿いの調査地で、水平線にイカ釣り船の漁火が煌々と輝いていた日には光に惑わされたようで、あまり集まらなかった記憶があります。

北海道では春や秋はもちろん、ときには夏でも夜の気温が10以下になることがあり、そんな日の蛾達は、がんばって飛んでは来ても、カーテンにとまればとりと地面に落ちてしまいます。大雪山などの高山では飛んでくることすらできず、地面を這ってやってくることもあるそうです。

ある日のフィールド・ノートから

ライトトラップ

反対に環境が良く好条件のときにはものすごい数の虫達が集まってきました。小さなトビケラや蚊の類などがカーテンの前に黒いカーテン?と思うほど飛び回り、決死の覚悟でその中に入ると、顔や手や体中に飛び回る蛾の攻撃をくらい、飛び散った鱗粉や小さな虫達を吸い込んで咳き込むこともしばしばです。

蛾類に関する特殊な調査として、フユシャク類を対象とした調査を行ったことがあります。フユシャクとは、成虫が11月から3月頃の晩秋から早春にかけて出現し、雄は普通の形をしています。雌は翅が退化しているか又は全く無く、また冬の間は餌がないので、口が退化し、成虫になると何も食べない種が多いという一風変わった

シャクガの仲間です。11月初旬の雪もちらつこうかという日、木々の葉も落ち見通しの良くなった林の中を、雌をさがして飛翔する雄と樹幹に静止し雄を待つ雌を探して歩き、夜にはトラップを立て、かじかむ手に息を吹きかけながらフユシャクが飛んでくるのを待ちました。

実際にはフユシャクの類は走光性が弱いのので灯火での採集はあまり期待できず、薄暮時から夜にかけてライトを持って林の中を歩いて採る方法が最良のようです。

かぶれる、鱗粉が飛ぶ、胴が太くて気持ちが悪いなど大抵は嫌われ者の蛾類達ですが、その種類は多く、日本にはわかっているだけでも、約5000種が分布しているとされています。宵闇の深閑とした森の中で、(実際には森ではなかったり発電機のものすごい音がしていたりしますが)青白い光を照らし、大きさや形、模様、習性等それぞれ一つ一つ違う蛾を採集するライトトラップ。それは、生命と進化の不思議を感じるちょっと神秘的な時間です。

(北海道支社自然環境調査室・稲守 恵)

ご意見 ご質問 お待ちしております

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

東京もだいぶ秋の気配が近づき、夜ともなると虫の声が聞こえてきます。あの暑い暑い夏が夢のようです。会社の隣には芋畑がありますが、青々とした葉が「もうすぐ収穫だよ」と言っているようです。10月にはきっと子供たちが楽しそうに芋掘りをする姿を見せてくれることでしょう。(地主さんが、幼稚園等と契約をして芋を育ててくれているようです)東北の秋の行事に「芋煮会」があります。各地域で味付けや具が多少違うようですが、私の田舎の秋田でも休日ともなるとあちらこちらの河原等で「芋煮会」をしている姿が見られます。こんな収穫を喜び、味わうという行事はおそらく各地でおこなわれているのでしょうか? 営業にお伺いした際にお暇でしたら各地のこんな話も教えていただきたいものです。(鈴木志保子)

News Letter NO.16 2002年 10月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚 敏
編集...中山香代子・伊藤 透・鈴木志保子・高岡由紀子
東京本社 〒154-0015
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口...鈴木志保子・伊藤 透・高岡由紀子
大阪支社 〒569-1123
大阪府高槻市芥川町1-15-18ミドリ芥川ビル
TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184
営業窓口.....中山香代子
北海道支社 〒001-0017
北海道札幌市北区北17条西5-20-303
サンオー IビルF
TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
営業窓口.....中島正雄